

歴史は未来の羅針盤



今号から三か月に一度、近江日野商人館からお届けします。  
江戸時代わが国の経済界で大きな役割を果たした近江商人の中で、当町の出身である「日野商人の商いとその業績」を紹介していきます。

## 日野商人の商人仲間

日野商人館は、びわこ国体の年  
に開館されて以後、今年で二十七  
年目を迎えています。

来館者は、県外の方々が圧倒的  
に多く、日野商人や近江商人に関  
心を持つ人が全国に多くいること  
に驚かされます。

近年、日野町史の編さんが進め  
られている関係もあり、日野商人  
の歴史について、新たな事実の発  
見が相次いでいます。日野商人が  
近江商人のなかでも、これまで知  
られていたよりも、はるかに優れ  
た商人集団であることがわかって  
きました。

近江商人には、日野商人以外に  
も、八幡商人や五個荘商人、高島  
商人などがありますが、その歴史  
や商いの方法には、それぞれ違い  
があります。

日野商人の最も大きな特徴は、  
商人仲間を組織して商っていたこ

とです。これは、他の近江商人に  
は見られない特徴です。

この商人仲間は、「日野大当番  
仲間なかま」と呼ばれていました。多い  
時には四百名以上の商人が加入し  
ていました。

この仲間に入ると、様々な  
特典がありました。加入者には、「  
印札いんさつ」と呼ばれる木札の会員証  
が発行され、「日野大当番」と墨  
書きされた木札には「江州日野商  
仲間なかま通行証」と焼き印が押されて  
おり、身元を証明するものとして  
全国での商いに持参されました。

この印札を持つ商人は、関所で  
も簡単な取り調べで通過でき、ま  
た、江戸幕府の勘定奉行所から特  
別な保護を受けることが保証され  
ていました。

それは、代金を払わない客から、  
日野商人に代わり勘定奉行所が代  
金を取り立ててくれる特典です。  
言わば、最高裁判所が取り立てて  
くれるようなもので、天下広しと

言えども、幕府の保護が得られた  
商人は多くありません。

なぜ、大当番仲間商人が幕府の  
保護を得られたのか、はっきりし  
たことは不明ですが、関ヶ原の戦  
い、大坂冬・夏の陣で日野鉄砲が  
徳川家に貢献したことや、日野町  
民は年貢を米ではなく、自主的に  
銀で納めることを申し出ていたこ  
とが背景にあった様子です。

大当番仲間の加入特典には、ま  
た定宿制度がありました。定宿と  
は、大当番仲間が全国の宿場に設  
けた指定宿で、全国に数百か所も  
の定宿が配置されていました。

各定宿の店頭には、大当番仲間  
で作製された「日野商人定宿」と  
彫られた木製看板が掛  
けられました。幕府  
が保護する日野商人の  
定宿に指定されること  
は、大きな名誉であり、  
世間からも、現代の五  
つ星ホテルのような信



頼できる宿として扱われていまし  
た。

近江商人や日野商人と言えば、  
天秤棒による商いを連想しますが、  
近江日野から全国へ、すべての行  
程を天秤棒で荷なっていたのでは  
ありません。馬を使うことが多く、  
また、あらかじめ、定宿へ飛脚便  
で商品を送り、その定宿を拠点に  
して、近辺の村々で天秤棒による  
商いを行っていました。

大当番は、専用の飛脚組織も持っ  
ており、毎月、日野から定期便の  
京飛脚と伊勢飛脚が出ており、そ  
の先は、全国の海陸の流通組織と  
特約が結ばれて、日野商人に便宜  
が図られていたのです。

以上のような、組織的な機能性  
と全国網を持ち得たからこそ、日  
野商人が全国で商うことができ、  
それらを考え出したリーダー層の  
発想力が、日野商人を三百年にわ  
たって天下で躍動させたのです。